

活動レポート

技術者のミライ研究委員会

文責：技術者のミライ研究委員会 幹事長 千葉 裕

オンラインでの講演にも磨きがかかってきました 「技術士を知ろう！」 in 北海道科学大学

1. はじめに

「技術者のミライ研究委員会」(ミライ研)にて運営等を担当している「技術士を知ろう！」ですが、2021年度の活動第1弾は、2016年度から講演を行っている北海道科学大学(北科大)にて実施しました。今回も青年技術士交流委員会(青技交)の連携・協力を得て、実施しています。

北科大では、緊急事態宣言下においてオンラインでの授業を行っており、今回の講演でも昨年と同様に大学側の協力を得てオンラインでの“出前授業”を実施しました。

2. 実施概要

開催日時：令和3年6月3日(木) 13:00～14:30

講義内容：技術士について

技術士の仕事内容と役割(講演2編)

土木全般の仕事紹介

対象者：北海道科学大学都市環境学科 計48名
1年生44名、他4名

参加幹事：小澤、木本、仁田、千葉(記)(ミライ研4名)。森若(青技交1名)

北科大での講演は、都市環境学科の細川先生の力強いバックアップがあって、これまで実施してきました。今回から松田先生(青技交 幹事)も加わり、ますます太い繋がりが構築されました。笑

〈オンラインでの実施概要〉

北海道科学大学では、「オンライン」で実施するシステムが構築されています。学校側でライセンス取得したZoomをベースにしたもので、学校内に講師側が発信する“スタジオ”のようなものが用意されており、学生側が自宅等からオンラインで参加する形となっていました。

3. 技術士について

小澤代表より、技術士資格の説明として、技術士の役割、資格取得方法、持つことのメリット等を説明したほか、社会人になってから仕事をする上での資格取得の重要性等について説明を行いました。

対面とは異なり、カメラに向かっての講演となるため、いつもよりは少しだけ(?)テンション抑えつつ、画面の向こうにいる学生に話しかけるよう、身振り手振りや目線も配りつつ、熱く講演してくれました。



写真-1 学生の反応(お腹周り?)が気になる小澤代表

4. 技術士の仕事内容と役割

(1) 技術士の仕事(仁田技術士)

具体的な仕事内容の紹介として、まずは(株)雪研スノーイーターズに勤務する仁田技術士から、関わってきた仕事の紹介をしました。

学生時代に思っていたことから、社会に出て感じたこと、前職での測量に関する仕事や、現職の雪に関する仕事、さらに、資格等を取得することで転職、現在の立場になっているという経歴も交えた説明で、就職後の就業イメージや資格の重要性等が伝わったように思います。

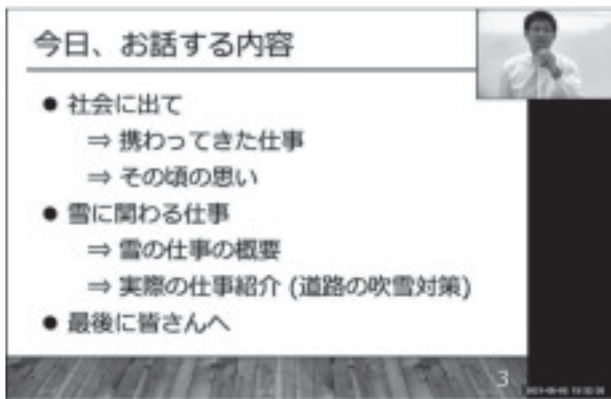


写真-2 ワイフ画面で登場する仁田技術士

(2) 技術士補の仕事(森若技術士補)

続いて、北科大(旧道工大卒)OGで、北電総合設計(株)に勤務する森若技術士補から、担当している仕事(発電所のモニタリング調査)の講演を行いました。発電に使用された水を排水する際に、海に生息する生き物に影響を与えないため水温差や温排水拡散範囲等の基準がある事。調査日の設定では、潮位差が大きい大潮目つ下げ潮時に、発電出力および放水量が最大となる時間帯を選ぶことなど、自身が経験した課題解決方法を紹介してくれました。

また最後にはOGからの「ミライの技術者」に向けたメッセージを語りかけました。学生達は、自らの将来と森若さんを重ね合わせることで、より深く考えるきっかけになったように思います。



写真-3 学生の心を掴んだ森若技術士補(青技交 幹事)

5. 土木の仕事全般の紹介

講演最後は、(株)ドーコンに勤務する木本技術士から土木や建築の業界全般を対象に2人の講演で紹介しきれなかった様々な仕事を写真で紹介。入学間もない学生が知っていそうな施設紹介を取り上げ

ることで、土木の「大ワク」を把握、興味をもってもらう点にフォーカスした講演を行いました。



写真-4 いつでも冷静沈着な木本技術士

6. 質疑応答

質疑応答では、「学生のうちに取り組む勉強内容は?」「コミュニケーションで気をつけることは?」といった今後の就職活動に直結するような質問や実際の仕事に関する質問も多くありました。



写真-5 学生達の参加状況(写真を加工しています)

7. まとめ

学生からの感想には「技術士を取得したくなった」等の技術士取得の動機となるようなキーワードが多くありました。アンケートでは、48人中35人が「技術士を今回初めて知った」「名前だけは知っていた」等だったのに対し、48人中42人が「将来技術士を取得したい」と回答してくれました。同アンケートでの今回講演の「わかりやすさ」「満足度」は5段階評価でいずれも4.8と学生に高評価であり、まずまず成功できたと考えています。今後も技術士の社会的認知度の向上に精進致します。